



中村俊定文庫
文庫 18
720



よまふるの回まふるまふるのまふる
しほのまふるのまふるのまふる
けのまふるのまふるのまふる
まふるのまふるのまふるのまふる
まふるのまふるのまふるのまふる
まふるのまふるのまふるのまふる
まふるのまふるのまふるのまふる
まふるのまふるのまふるのまふる



柿の木れあはるるよるの月 乙見
高志秋のきもきこを先 方石
山麓れ飛や岩もとふのり 嵐外
松苔もやん馬鞍ありき 岳臺
めつしきくちをえのまふる 天口
四子はまふるまふるのまふる 見



其由藏

吾も此れ桶の底にんふちを
 泉鴨に〜くやせしよるれあ
 羽織袴も此れ泉のよ〜り
 梅津のそとで眠〜きれ
 夢窓く〜れの彼れ味も
 いちよ〜くせ〜るれ娃子
 伐株のそ乃昔ともの夜も
 女席に〜く〜ぬは〜しと
 吾 接 丸 臺 東 陵

ある僧もおもは恨の有あり
 自可やせ〜らんぬれむ〜家
 弱米れ赤鷲頭とさきと〜を
 秋のり〜と〜もぬ股引
 町屋のそなぬれ大ぬる多梨
 嶋のそ〜ぬぬれ〜い
 春公れ〜しめよ傘と巻〜おひ
 さ〜しあ〜し〜は〜おのろ
 見 臺 丸 八千信 陵

立つらと家ちを建てる物とみり 陵
 藤可くを梅山伏をよふ 心
 子親ふくときあふふ麻しるも 丸
 杖むすすれやし四ッ谷赤さる 信
 殊勝く墓のあふれ小傾城 月井
 本槿の秋をよふとあふく怒 庭
 七月や香の月れを新いて 丸
 前や境く群あ壺桐壺 臺

柴門とあふい怒あよけくも色 見
 比中れ樹をそあふ回螺丸 後
 系らるる福向はるつもくく 心
 中や権現とあれさるれ日 石
 武士の鳥をそあふあふくも 位
 舟忠朽ぬるその系と尺よ 井

秋の河や門ありくとりあり翁
山住の人ありしきりよの秋
雲の日と暮れは是れ秋二日三日
ふ雲とありさまれくや人の志
八ふ信

鬼洞

省故

素葉

八ふ信

如來寺

人語り雲よぬもさく人言光寺
五川より河まをえし夜れき
冥々
一之

稲妻や好り冷もも今志をし
一いつよ火を焚きおれしやう系
雲もやん舟の中著や秋の音
船鳥すくんともさく秋れ雨
あさぬす何そ先と雲れしつり
何ゆよ先へあちるも秋のつゆ
雲さけとさふ雲ありと暮れ秋
秋すくさ暮りくちるも情あり

暮三

碧山

稲花

見江

斗嶺

仙市

泉河

何音

例に候ふれ名も少く女而名
すゝまもりあはるきりぬる気
人無象すつゝををし芒原
千丈
天老
草司

物々

むしの毒も思ふれ多居小葉垣と
離神尾生死れ少りとせぬあ人の
おもひあはる侍れ地中
秋草や赤もくも葉の夕まを
岳終

来る居れもくもあれ自夜に
芦のくもすゝれくも居れ地中
あしよ居れもくもあはる
素雀
月五
水布
新やんあはるくもあはる
響園
ふりあはる
うらあはる
蜻蛉のあはるくもあはる
天々

秋野のりてさきし自夜外

五明

荆 意

月とまの光とさしある霧外

曾人

中秋十四日

田代人のあふれよ自ハおもせそ

嵐外

今十五日

月とえそと月夜秋と思ひきれ

方五

撫ふ月又の夜外さより案

真何

おさく十六日

いよいよや山ささちあはれ山

を帯

舟又も秋のまれすれ山家外

恒兄

手あはれもれまれ家くさうて

其政

秋外よるの光もあつてもさうす

其年

十も一のれ道とれさう想秋の夜

楚文

麻のささちちうくもさるる三は月

按丸

いろくの木れらまやふる麻の夜

蛙文

きよととも秋風吹ぬさうの空	乙二
年くすも葉をゆきしくあふる	呂理
葉もさくとも風あぬ山路のふ	挂五
坊う危鶴のり名もあまやせん	草丸
海山やゆきづのそと後の月	柳波
芦刈の芒も可ぬよとせ此秋	堀守
葉もれ何事あふも秋の言	岳臺

夏の月まよさく久人明りきり	核丸
雲とけなれ霧のまじしき	天口
きりくも何絶くせん次端を	岳臺
雲位このゆきくもあふる	草丸
四舞の白ひりゆきけり	方五
北のあくさるれ霧をむとさ	東陵

か茂川や井多房子立わうも
あきあきしう松継とあはれ
意すすう名と実りかくすう
戸くちもあまのまねとあまの
鉢あまの葉の替大うまあまの
玉帯少くもまよるもあまの
鳴くも帯根くひゆるまうくす
廻り袂のあまのくししや

竹 核 石 陵 臺 草 核 竹

さる寮の門もくわん有のあ
併ふあまのうまもあまの
うまのあまのうまのあまの
鞠子あまのあまのあまの

臺 石 陵

おのちを卯のきくしあふん 芽雨

糸巻のちよふさしあふんを何しよ

よふくまふく人うまももきこあ

あふんはふとほちゆれされんこし

糸巻しよきあふしよふん みち彦

何れあふよふとむん時き 鳥聖

見ぬあえれあふ月夜あふん 里守

うまあふのちあふさふあふ 白岡

あふあふあふあふあふあふ 百十

あふあふあふあふあふあふ 一蕙

あふあふあふあふあふあふ 若人

あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ 真義

あふあふあふあふあふあふ 蕙雨

あふあふあふあふあふあふ 蒼圀

一はきりさきりさきりのさ 久留

ゆふきのあやましくとみる角 春唄

あふれさのさきさきさき 杜若 草花

いちさきのさきさきさき 風流 碧秋

なゆれさきさきさき 戸外 如蘭

忘ささきのさきさきさき 真之

樹とさきさきさきさき 樗堂

りくささきのさきさきさき 雨暎

えぬれのさきさきさき 月晴 麻右

桐のさきさきさきさき 五月雨 成美

月れさきのさきさきさき 月夜 清雅

あふさきのさきさきさき

夏の月本の間もさきさき 燕明

夜もさきさきさきさき 乙見

あやさきのさきさきさき 漫

さきさきさきさき 青昌

舟抄く枕耳ちろしやれま

吐丈

有可くまはれぬる事下る

壺伯

田島くまはれぬる事下る

莫二

山鳩やすしき風よとる并ふ

書以

夕鳥や去のよまれまふし

岐東

ア梨の雛まよとま

河おや夕鳥柳まよませ

巢北

系り入く時中歩後の蝶の生

河彦

との家も押も暮るしりもえ

三郎良

系もちあるや時るれ垣根ま

魯隠

十月や雨れれぬるの不その山

春蟻

又そのふまふしもあふれ松尾ま

草人

お布あるまふまふく山ま

樽冠

風やりもくもまうま

宇六

柴門の庭より山を望むや木は紫のま
三枝

石露のまを木は紫のまを望む
左岳

子規の川夜よけを望む
夏江

籾の編みのまを望む
希之

一月十九日内外の庭を望む

空を望むとまを望む
松拳

岩の實やまを望む
蘿堂

卯多れを望む
長翠

戸一枚を望む
冬系

おく山を望む
左琴

梅の樹を望む
魚堂

一月も望む
松兄

何となく望む
江雪

去る橋より葉と人のむしき
士朗

よきふれはさしむるや梅の香
石羽

自んもくしあもくもあはく梅の香
一草

咲このれ梅の香しうささ家小
左誥

梅の香よちんれくちとのむよるは
騎六

旅のあはれくもれかきふちも梅の香
羅城

うめはやばは向き居れしは
椿堂

嘗れよききふりらる藤の中
可考

山川やうらけきれあまあこのむし
瓢箪

うらたひすも壺もあまきうまの欠
何人

青柳とあうさくはく小葉のふ
金英

夜半まき人う南すくくやすくく梅の香

菊しそふせきとむらぐくく梅の香の

後園あう柳のふれ一本れもたつるふも

さあこのく春色もくはくはくはくし

吹きく自んもくはくはくはくはく
東陵

喜とつふ家柵ありて幾々の名
世都乞

ふれ事無樹をてうきと毒のふ
月井

一毛やの董もくさのきしとふ
月舎

席松れるささのしと通しり
久蝨山

茶島やなれきる間もくさの風
五升

松川とくしりや伊勢越後
友國

急らありしてき又又ささ
青川

一さのさ木の間おしと梅のふ
鬼伯

旅席しときよき共はれささ
斗入

山のさささささささささ
ささささ

可久和路とささ

菰草のちれちとささ
名売

ちれさささ西りたさ
少女

深山ささ月さささ
可都里

山角可能るれささ
押莊

あまのささ吹うささ
泉雅

やまのこゝろをさきとあくす
棟堂をたはしりてふし
年有

聖回

おしりけりやまのこゝろ
あはれゆきふしや
長
分

享和改えのし
秋九月

京御幸町錦小路上丁

書林 勝田喜右衛門



